	ory of Academic resources					
Title	R&Dの国際化とオープン化とイノベーション					
Sub Title	International open R&D and innovation					
Author	浅川, 和宏(Asakawa, Kazuhiro)					
Publisher	慶應義塾大学					
Publication year	2023					
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)					
JaLC DOI						
Abstract	本研究では、企業のオープンで国際的なR&D活動が企業のイノベーション成果にいかなる影響を及ぼすかに関する実証分析を行った。このような大きな問題設定の中で、本研究は特にイノベーション成果としてプロセスイノベーションに着目している。R&Dのオープン化、国際化の製品イノベーションに及ぼす影響についてはこれまで様々な研究が行われてきたのに対し、そのプロセスイノベーションに及ぼす影響については、これまで十分な検討が行われてこなかった。更に、企業のR & Dの国際化、オープン化が企業のイノベーションに及ぼす影響とするものである。先進国においては企業の国際化、オープン化が常態化しており、必ずしも国際化、オープン化を影響を測定しづらい状況にある。そこで本研究では、制裁下にあるイランの企業データを対象に、制約下にあってのグローバル化、オープン化の試みがプロセスイノベーション成果に及ぼす影響を実証分析した。分析の結果、国際化、オープン化を通じた海外からの知識獲得ではその効果は認められなかった。更に、国内の競争環境が激しい状況では、国際化、オープン化を通じた海外からの知識獲得はなわった。大国内の競争環境が激しい状況では、国際化、オープン化を通じた海外からの知識獲得はなおー層企業のプロセスイノベーションへ大きな効果を及ぼすことも確認された。今年度の研究成果は、オークランド工科大学のOmid Aliasghar教授とリーズ大学のElizabeth Rose教授との共著論文として掲載された。本年度の研究成果は、本年度の研究テーマである「R&Dの国際化とオープン化とイノベーション」の一部に焦点を当てたものであるが、その重要性が企業のプロセスイノベーションに及ぼす効果として確認された。 This research examined the effect of international, open R&D on innovation of firms. While prior studies have investigated the way international, open R&D on innovation of firms in the advanced countries, while scant attention has been paid to the case of firms based in developing countries. In this research, we highlighted international open R&D by firms in Iran where R&D collaborations across nations are constrained by economic sanctions. We found that international knowledge sourcing by firms was effective for process innovation even for those located in the international yealent for firms facing competitive intensity of the home country. This research has been published in International Business Review, an international refereed journal, co-authored with Omid Aliasghar of Auckland University of Technology and Elizabeth Rose of the University of Leeds.					
Notes						
Genre	Research Paper					
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210041					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	大学院経営管理研究科	職名	教授	- 補助額	300	(A)	千円
	氏名	浅川 和宏	氏名 (英語)	Kazuhiro Asakawa				

研究課題(日本語)

R&D の国際化とオープン化とイノベーション

研究課題 (英訳)

International open R&D and innovation

1. 研究成果実績の概要

本研究では、企業のオープンで国際的な R&D 活動が企業のイノベーション成果にいかなる影響を及ぼすかに関する実証分析を行った。このような大きな問題設定の中で、本研究は特にイノベーション成果としてプロセスイノベーションに着目している。 R&D のオープン化、国際化の製品イノベーションに及ぼす影響についてはこれまで様々な研究が行われてきたのに対し、そのプロセスイノベーションに及ぼす影響については、これまで十分な検討が行われてこなかった。

更に、企業のR&Dの国際化、オープン化が企業のイノベーションに及ぼす影響を分析した既存研究は先進国企業を対象とするものである。先進国においては企業の国際化、オープン化が常態化しており、必ずしも国際化、オープン化自体の影響を測定しづらい状況にある。そこで本研究では、制裁下にあるイランの企業データを対象に、制約下にあってのグローバル化、オープン化の試みがプロセスイノベーション成果に及ぼす影響を実証分析した。

分析の結果、国際化、オープン化を通じた海外からの知識獲得はプロセスイノベーションに貢献することが明らかになった。一方、国内のみの知識獲得ではその効果は認められなかった。更に、国内の競争環境が激しい状況では、国際化、オープン化を通じた海外からの知識獲得はなお一層企業のプロセスイノベーションへ大きな効果を及ぼすことも確認された。、

今年度の研究成果は、オークランドエ科大学の Omid Aliasghar 教授とリーズ大学の Elizabeth Rose 教授との共著論文として国際学術誌 International Business Review の査読論文として掲載された。

本論文の研究成果は、本年度の研究テーマである「R&D の国際化とオープン化とイノベーション」の一部に焦点を当てたものであるが、その重要性が企業のプロセスイノベーションに及ぼす効果として確認された。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

This research examined the effect of international, open R&D on innovation of firms. While prior studies have investigated the way international, open R&D influences product innovation, very few studies shed light on the impact on process innovation.

Moreover, extant studies predominantly examined the international, open innovation of firms in the advanced countries, while scant attention has been paid to the case of firms based in developing countries. In this research, we highlighted international open R&D by firms in Iran where R&D collaborations across nations are constrained by economic sanctions. We found that international knowledge sourcing by firms was effective for process innovation even for those located in the internationally isolated economy like Iran. Such findings are particularly salient for firms facing competitive intensity of the home country.

This research has been published in International Business Review, an international refereed journal, co-authored with Omid Aliasghar of Auckland University of Technology and Elizabeth Rose of the University of Leeds.

3. 本研究課題に関する発表 発表者氏名 (著者・講演者) Aliasghar, O., Rose, E., and Asakawa, K. Sources of knowledge and process innovation: The moderating role of perceived competitive intensity